
専門分野 II

看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護	講師名	看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 運動、脳・神経、感覚機能障害のアセスメントの実際が理解できる。 2. 運動、脳・神経、感覚機能障害の検査・治療に伴う看護が理解できる。 3. 運動、脳・神経、感覚機能障害をもつ患者の看護が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1 回 ～5 回	1. 運動機能障害を持つ患者の看護	1) 運動機能障害と日常生活の影響 2) 運動機能障害の症状とアセスメント 日常生活動作機能障害の程度と原因 3) 運動機能障害の検査に伴う看護 画像検査、脊髄造影検査、関節造影、骨密度測定、筋電図 4) 運動機能障害の治療に伴う看護 保存療法（ギプス固定、牽引） 手術療法（椎間板ヘルニア摘出術、骨折治療、人工関節置換術、切断・離断術） 5) 運動機能障害を持つ患者の看護 大腿骨頸部骨折、椎間板ヘルニア、脊椎損傷、 関節リウマチ 6) 援助の実際（ADL 訓練と介助方法）歩行の援助（松葉杖）、深部静脈血栓予防			講義 演習
6 回 7 回	2. 機構が担う特徴ある運動器に障害のある患者の看護	1) 重症心身障害者の看護 2) 筋ジストロフィー症患者の看護			講義
8 回～ 12 回	3. 認知・コミュニケーション障害をもつ患者の看護	1) 脳・神経機能障害と日常生活への影響 2) 脳・神経機能障害の症状とアセスメント 意識障害と診察法・言語の表出 3) 脳・神経機能障害の検査に伴う看護 髄液検査、画像検査、脳血管造影、脳波 4) 脳・神経機能障害の治療に伴う看護 手術療法（開頭術）、保存療法（薬物、化学、放射線療法） 5) 脳・神経機能障害を持つ患者の看護 脳梗塞・出血・腫瘍、パーキンソン病、認知症			講義
13 回 ～14 回	4. 感覚機能障害を持つ患者の看護	1) 感覚機能障害と日常生活への影響 2) 感覚機能障害の症状のアセスメント 3) 感覚機能障害の検査に伴う看護 視力・眼底・眼圧・視野検査、嗅・味覚検査、咽・喉頭内視鏡、聴力検査、平衡感覚検査 4) 感覚器障害の治療に伴う看護 薬物療法、手術療法（硝子体、角膜移植、鼓室形成術、副鼻腔術） 5) 感覚機能障害を持つ患者の看護 白・緑内障、網膜剥離 慢性中耳炎、メニエール病、慢性副鼻腔炎			講義
15 回	筆記試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 10（運動器）、成人看護学 7（脳・神経）、成人看護学 13（眼） 成人看護学 14（耳鼻咽喉） 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院				
備考					

授業科目	生命維持機能に障害のある 成人の看護	講師名	看護師	単位数	1単位
				時間数	30時間
				年次 学期	2年次 前期
学習目標	1. 循環、呼吸、血液・造血機能障害のアセスメントの実際が理解できる。 2. 循環、呼吸、血液・造血機能障害の検査・治療に伴う看護が理解できる。 3. 循環、呼吸、血液・造血機能障害をもつ患者の看護が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回～ 6回	1. 循環機能障害を持つ患者の看護	1) 循環機能障害と日常生活への影響 2) 循環機能障害の症状とアセスメント 胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、ショックうっ血、チアノーゼ 3) 循環機能障害の検査に伴う看護 心臓カテーテル、心電図、動脈血ガス分析 4) 循環機能障害の治療に伴う看護 薬物療法（降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗凝固薬）、 手術療法：開心術（冠動脈バイパス術、弁置換術、人工血管置換術） 5) 循環機能障害をもつ患者の看護 虚血性心疾患、心不全、不整脈、ペースメーカー植込、弁膜症		講義	
7～9回 10～11回	呼吸機能障害を持つ患者の看護	1) 呼吸機能障害と日常生活への影響 2) 呼吸機能障害の症状とアセスメント せき・喀痰、血痰・喀血、胸痛、呼吸困難、胸水、ガス交換障害の程度 3) 呼吸機能障害の検査に伴う看護 肺機能検査、動脈血ガス分析、気管支鏡検査、肺生検、胸腔穿刺 4) 呼吸機能障害の治療に伴う看護・薬物療法、薬物療法、吸入療法、酸素療法、肺理学療法、人工呼吸器、胸腔ドレナージ、放射線治療、肺切除術（開胸術、胸腔鏡下手術） 5) 呼吸機能障害を持つ患者の看護 肺炎、気管支喘息、COPD、肺癌 6) 援助の実際・・・呼吸訓練		講義	
12～13回	3. 血液・造血機能障害を持つ患者の看護	1) 血液・造血機能障害と日常生活への影響 2) 血液・造血機能障害の症状とアセスメント 貧血、出血傾向 3) 血液・造血機能障害の検査に伴う看護 血液検査、骨髄穿刺・生検 4) 血液・造血機能障害の治療に伴う看護 輸血療法、化学療法、造血幹細胞移植 5) 血液・造血機能障害を持つ患者の看護 白血病、悪性リンパ腫、HIV		講義 演習	
14回	結核患者の看護	1) 結核患者の看護		講義	
15回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学 専門分野Ⅱ 成人看護学3（循環器）、成人看護学2（呼吸器）成人看護学4（血液・造血器）医学書院				
備考					

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護	講師名	看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前／後期
学習目標	1. 消化、代謝機能障害の観察とアセスメントが理解できる。 2. 消化、代謝機能障害の検査・治療に伴う看護が理解できる。 3. 消化、代謝機能障害をもつ患者の看護が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1～6 回	1. 消化・吸収・排泄機能障害を持つ患者の看護	1) 観察とアセスメント（咀嚼、嚥下、消化、吸収、腹部の観察） 2) 症状に対する看護（腹痛、嘔吐、下痢、下血、便秘、腹満、イレウス） 3) 検査を受ける患者の看護 放射線検査、内視鏡検査、腹部超音波検査、ERCP 4) 治療・処置を受ける患者の看護 薬物療法（化学療法）、食事療法（治療食、経腸栄養、中心静脈栄養）、手術療法（開腹手術、内視鏡下手術） 5) 消化器の手術を受ける患者の看護 食道再建術、胃切除術、人工肛門造設術 6) 援助の実際 中心静脈栄養法		講義	
7 回	演習	演習：高カロリー輸液の管理、人工肛門装具交換		演習	
8～12 回	2. 代謝機能障害をもつ患者の看護	1) 肝機能障害 観察とアセスメント（倦怠感、黄疸、腹水、肝性脳症） 肝機能障害患者の看護（急性・慢性肝炎患者の看護、肝硬変患者の看護・肝がん患者の看護・肝切除を受ける患者の看護・胆嚢疾患患者の看護・膵臓疾患患者の看護） 2) 糖代謝障害 観察とアセスメント（肥満度、摂取・消費エネルギーの算出、血液・尿検査・神経学的所見の正常性、障害を促進する日常生活上の要因） 糖尿病患者の看護（心理面への援助、教育的アプローチ、合併症予防に対する援助） 3) 脂質・尿酸代謝障害 観察とアセスメント（障害の程度、障害を促進する日常生活上の要因） 脂質異常症患者、痛風・高尿酸血症患者の看護（食事・身体活動を中心とした生活指導）		講義	
13～14 回	3. 内分泌機能障害を持つ患者の看護	1) 観察とアセスメント 2) 内分泌機能障害患者の看護（下垂体疾患患者の看護 甲状腺疾患患者の看護・副甲状腺疾患患者の看護・副腎疾患患者の看護）		講義	
15 回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院				
備考					

授業科目	排泄機能、生殖機能、 免疫機能に障害のある成人の看護	講師名	看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次	2 年次
				学期	前／後期
学習目標	1. 排泄、生殖、免疫機能障害のアセスメントの実際が理解できる。 2. 排泄、生殖、免疫機能障害の検査・治療に伴う看護が理解できる。 3. 排泄、生殖、免疫機能障害をもつ患者の看護が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1～4回	1. 腎・泌尿器機能系に障害を持つ患者の看護	1) 観察とアセスメント 浮腫・脱水の観察法、体液不均衡の程度、腎不全の病期、排尿パターン、畜尿・尿排泄障害の程度 2) 症状に対する患者の看護（疼痛、血尿、尿閉） 3) 検査を受ける患者の看護 尿検査、膀胱鏡、静脈性腎盂造影、腎生検、尿流動態体検査 4) 治療・処置を受ける患者の看護 急性・慢性腎不全患者、尿路変更術を受ける患者、腎摘出術を受ける患者、間欠的自己導尿法、腎瘻、膀胱瘻 5) 血液透析を受ける患者の看護			講義
5～7回	2. 女性生殖器系に障害を持つ患者の看護	1) 観察とアセスメント 生殖器、ホルモン分泌、性行動 2) 診療の介助 内診時の看護、検査時の看護 3) 症状に対する看護 4) 治療・処置を受ける患者の看護 子宮摘出術、乳房切除術、化学療法、放射線療法、ホルモン療法 5) 援助の実際 乳がん術後のドレーン管理と上肢機能訓練			講義
8・9回	3. アレルギー疾患患者の看護	1) 観察とアセスメント 2) 症状に対する看護 3) 検査を受ける患者の看護 4) 治療を受ける患者の看護 アレルゲンの回避・除去、薬物療法、減感作療法 5) 生活指導 気管支喘息			講義
10・11回	4. 膠原病疾患患者の看護	1) 観察とアセスメント 2) 症状に対する患者の看護 3) 治療を受ける患者の看護 薬物、理学、手術 関節リウマチ、SLE、全身性硬化症			講義
12・13回	5. 感染症疾患患者の看護	1) 観察とアセスメント 2) 症状に対する看護 3) 治療を受ける患者の看護 4) 感染防御 HIV/AIDS、敗血症、日和見感染			講義
14回	6. 腎移植を受ける患者の看護	1) 腎移植 2) 移植に関わる職種 3) 看護			講義
15回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	8	腎・泌尿器 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	9	女性生殖器 医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	11	アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
備考					

授業科目	成人看護学演習	講師名	専任教員 看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 急性期・慢性期にある対象の生体内部環境の変化とフィジカルアセスメントが理解できる。 2. 急性期にある成人期の看護に必要な看護技術を、演習を通して習得する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1～5 回	1. 慢性期にある糖尿病患者の看護	1) 事例紹介、Ⅱ型糖尿病の病態生理と治療 2) 病態把握 3) 事例のアセスメント 4) 看護計画立案 5) 援助の実際		1 回目：講義 2～4 回目：講義 (VOD) 5 回目：講義	
6～10 回	2. 急性期にある心筋梗塞患者の看護	1) 事例紹介、心筋梗塞の病態生理と治療 2) 病態把握・情報の整理 3) アセスメントと看護診断 4) 看護計画立案 5) 援助の実際 (課題へ)		6、7 回目：講義 8、9 回目：講義 (VOD) 10 回目：講義	
11～15 回	3. 急性期にある胃がん周手術期患者の看護	1) 事例紹介 胃がんの病態生理と治療、病態の把握 手術・全身麻酔による生体機能の急激な変化の把握 2) 事例のアセスメント (重症度と緊急性、苦痛の緩和と離床) 3) 看護計画立案 4) 援助の実際 ①術後 1 日目の観察 ②疼痛のある対象の早期離床		11 回目：講義 12 回目：講義 (VOD) 13 回目：演習 14 回目：講義 (VOD) 15 回目：演習	
	特別講演 健康危機状況にある成人の理解(終末期・緩和ケア)	1. 健康危機状況(終末期)にある成人の苦痛や身体機能悪化・生活行動の変化・心理的精神的混乱について理解できる。 2. 患者の家族または支援者の不安や負担の軽減のために必要な看護を理解できる。 ①終末期にある患者を支える家族などが体験する心理的・精神的な反応、家族に対するケア ②終末期にある患者を支える家族などが体験する心理的・精神的な反応、家族に対するケア		講義	
評価方法	レポート等で評価する				
テキスト 参考書等	参考書：成人看護技術 南江堂 臨床看護実践マニュアル 南江堂				
備考					

授業科目	高齢者の生活援助技術	講師名	看護師	単位数	1単位
				時間数	30時間
				年次 学期	2年次 前期
学習目標	1. 加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法が理解できる 2. 高齢者の健康・自立を支えるための基礎援助方法を理解できる 3. 加齢に伴う症状に対する援助方法について理解できる 4. 自立を支える日常生活の援助ができる				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回 2回	1. 日常生活を支える基本動作	1) 高齢者の日常生活動作(高齢者体験含む) 2) 高齢者のコミュニケーションの特徴 Gワーク: 高齢者の生活動作への援助やコミュニケーションの方法について		講義 演習	
3回 4回 5回	2. 高齢者のアセスメント	1) 日常生活動作の評価指標 バーセルインデックス、CGA 2) 転倒のアセスメント 3) 廃用症候群のアセスメント 4) よく見られる身体症状とアセスメント 発熱、痛み、瘙痒、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感 Gワーク: 高齢者のフィジカルアセスメント		講義 演習	
6回 7回 8回 9回	3. 自立を促す日常生活の援助のアセスメントの方法と援助の方法	1) 食事と栄養 (1) 摂食動作や認知機能、歯・口腔の変調 (2) 摂食・嚥下機能と食事に対するアセスメントとケア 口腔、嚥下機能の向上、嚥下を促す方法 誤嚥時の対応、口腔ケア(義歯の取り扱い含) 2) 清潔 (1) 皮膚の障害 (2) 清潔のアセスメントとケア 3) 生活リズムと睡眠 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 生活リズムのアセスメントとケア 4) 排泄 (1) 排泄障害とその特徴 (2) 排泄のアセスメントとケア		講義 演習	
10回 11回 12回	4. 高齢者の終末期の看護	1) 高齢者の死のとらえかた(エンドオブライフケア) 2) 終末期における生き方や死の迎え方の意向 3) 高齢者の終末期ケア、家族へのケア (1) 苦痛の緩和と安楽への援助 (2) 臨死期の評価と援助 (3) 家族の参加と家族への援助 (4) グリーフケア		講義 演習	
13回 14回	5. 高齢者のリスクマネジメント	1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応 転倒・転落、熱傷、窒息、感染 4) 療養環境の調整		講義 演習	
15回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院				
備考					

授業科目	健康障害のある高齢者の看護	講師名	看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次	2 年次
				学期	前期
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と援助方法が理解できる 2. 治療を受けている高齢者の看護が理解できる 3. 高齢者に多い疾患の看護が理解できる 4. 介護保険を利用する高齢者の看護が理解できる				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1～2回	1. 検査・治療を受ける高齢者の看護	1) 検査を受ける高齢者の看護 2) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢と薬物動態 (2) 薬物療法による有害反応の徴候と観察・評価 3) 手術を受ける高齢者の看護			講義
3～7回	2. 高齢者に多く見られる疾患の看護	1) 脳血管障害(脳梗塞・脳出血・硬膜外血腫) 廃用症候群、寝たきり防止と自立支援 2) パーキンソン病 3) 循環器系疾患(虚血性心疾患・心不全) 4) 呼吸器系疾患(高齢者肺炎・) 5) 腎泌尿器系疾患(前立腺肥大) 6) 運動器系疾患(骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・脊椎圧迫骨折) 7) 感覚器系疾患(難聴、白内障) 8) 皮膚疾患(掻痒感、褥瘡、疥癬) 9) 感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)			講義
8～11回	3. 認知機能の障害に対する看護ケア	1) 認知症(アセスメントツールを含む) (1) 認知症の病態と要因 (2) 診断に必要な検査(認知機能検査・画像検査) (3) 認知機能の評価方法(知的機能の評価・生活機能の評価・評価尺度の活用) (4) 認知症の治療と援助 (5) 行動・心理症状と生活への影響と援助 (6) 認知症の高齢者を持つ家族への支援とサポートシステム (7) 認知症患者の権利擁護のための社会的支援・制度 2) せん妄 (1) せん妄の病態とリスク要因 (2) せん妄時の看護 3) うつ病			講義
12～14回	5. 地域資源を活用した高齢者の看護	1) 在宅高齢者への看護 介護予防、チームアプローチとの連携 2) 保健医療福祉施設における看護 入院する高齢者の看護 退院する高齢者の看護 リハビリテーションをする高齢者の看護 3) 介護保険を利用する高齢者の看護 4) 介護家族の看護			講義
15回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院				
備考					

授業科目	高齢者看護学演習	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次	2 年次
				学期	後期
学習目標	1. 自立を支える日常生活の援助ができる事例の高齢患者の病態、病期、看護度より判断した援助計画が立案できる。 2. 高齢者の看護に必要な看護技術を習得できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	認知症のある高齢者の看護 1) オリエンテーション	1) オリエンテーション 2) 認知症高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 3) 事例提示 認知症について		講義	
2～4 回	2) アセスメント 3) 情報の統合 4) 援助計画立案	3) 事例提示 認知症について ①アセスメント、援助計画の立案 ②援助内容の提示		講義 (VOD)	
5～7 回	5) 援助の実施 (1) 6) 援助の実施 (2) 振り返りまとめ	1) 援助の評価、計画の修正 2) 修正した援助計画の実施		講義	
8 回	排尿障害のある高齢者の看護 1) オリエンテーション	1) オリエンテーション 2) 高齢者の排尿障害の特徴 3) 事例提示		講義	
9～11 回	2) アセスメント 3) 情報の統合 4) 援助計画立案	3) 事例提示 ①アセスメント、援助計画の立案 ②援助内容の提示		講義 (VOD)	
12～14 回	5) 援助の実施 (1) 6) 援助の実施 (2) 振り返りまとめ	1) 援助の評価、計画の修正 2) 修正した援助計画の実施		講義	
15 回	まとめ			講義	
評価方法	レポート				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 7 (脳・神経)、成人看護学 8 (腎・泌尿器) 医学書院 基礎・臨床看護技術 第2版 医学書院				
備考					

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護	講師名	非常勤講師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 小児の成長・発達について理解できる。 2. 子どもの成長・発達段階に応じた健康増進のための看護について理解できる。 3. 健康障害が子どもや家族へ与える影響と、健康障害を起こした子どもへの看護を理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	小児の成長・発達	1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方 3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長・発達の評価		講義	
2 回	小児の栄養と看護	1) 子どもにとっての栄養の意識 2) 食事摂取基準、食生活と食育 3) 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護		講義	
3 回	新生児・乳児期の成長・発達と看護	1) 新生児期 2) 乳児期 アタッチメント、分離不安		講義	
4 回～5 回	幼児・学童期の成長・発達と看護	1) 幼児期 自我の発達と遊び 2) 学童期 学童の問題行動と対応		講義	
6 回	思春期・青年期の成長・発達と看護	1) 思春期・青年期 小児の性(セクシュアリティ)意識の変化と逸脱行動、情緒的な変化と家族関係		講義	
7 回	家族の特徴とアセスメント 疾病・障害を持つ小児と家族の看護	1) 子どもにとっての家族とは 2) 家族アセスメント 3) 疾病・障害が小児と家族に与える影響		講義	
8～9 回	小児における疾病・症状の特徴と経過別看護	1) 慢性期にある小児と家族の看護 2) 急性期にある小児と家族の看護 3) 周手術期の小児と家族の看護 4) 終末期の小児と家族の看護 5) 小児救急におけるトリアージと対応		講義	
10～12 回	症状を示す小児の看護	1) 一般状態の観察 2) 痛み 3) 呼吸・循環系の症状 4) 発熱 5) 消化器症状 6) 水分・電解質異常 7) 神経・筋症状		講義	
13～14 回	外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護 健康障害をもつ小児の生活と看護	1) 外来における小児と家族の看護 2) 小児の入院と小児・家族への影響 3) 小児の入院環境 4) 小児の入院と小児・家族の看護 5) 在宅療養を行う小児と家族の看護		講義	
15 回	試験・まとめ	1) まとめ			
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・臨床看護総論 医学書院				
備考	シラバスで示されている学習内容についてテキストを熟読したうえで受講すること。				

授業科目	健康障害のある 子どもの看護	講師名	看護師	単位数	1単位
				時間数	30時間
				年次	2年
				学期	前/後期
学習目標	1. 小児に起こりやすい健康障害を理解し、小児とその家族への看護について理解できる。 2. 健康障害に伴う様々な状況下にある小児とその家族への看護について理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1～2回	先天異常や障害のある 子どもと家族の看護	ダウン症候群（染色体異常）・脳性麻痺・重症心身障害・ 二分脊椎の小児 家族の障害受容過程、発達を促す援助、障害に応じた日常 生活援助、在宅療養の支援		講義	
3～4回	慢性期にある子どもと 家族の看護	I型糖尿病の小児 疾病理解と自己管理への援助、学校への適応 ネフローゼ症候群・腎炎の小児 浮腫への援助、急性期・回復期・退院への援助		講義	
5～6回	急性期にある子どもと 家族の看護	気管支喘息の小児 アレルゲン除去と生活指導、発作時・非発作時の援助 薬物療法への援助 急性胃腸炎の小児 脱水・下痢・嘔吐の症状への援助、栄養補給の援助 皮膚の清潔保持の方法 川崎病の小児 合併症発見や経過判断のための観察、発熱・脱水予防の 援助、ストレス緩和の援助、家族への援助 紫斑病の小児 出血予防と出血時の援助、安静保持への援助		講義	
7～8回	隔離を要する子どもと 家族の看護	麻疹・水痘・流行性耳下腺炎の小児 隔離の目的と方法、外来での対応、隔離された児の心理とス トレス緩和への援助		講義	
9～10回	手術を受ける子どもと 家族の看護	鼠径ヘルニア・口唇口蓋裂・ファロー四徴症の小児 手術を受ける小児の反応、術前プレパレーション 術後の観察と援助、退院後の療養生活の指導		講義	
11～12回	予後不良の子どもと 家族の看護	白血病の小児 小児へのインフォームド consent、小児と家族の疾病受容過程 化学療法時の援助、小児の死の理解 終末期の小児と家族への援助		講義	
13回	活動制限を受ける子ど もと家族の看護	上腕骨・大腿骨・下腿骨などの骨折の小児 活動制限による身体的・心理的影響とストレス緩和の援助整 復・牽引時の援助、疼痛緩和の援助		講義	
14回	子どもの事故と看護 小児の虐待と看護	誤飲・誤嚥、溺水、熱傷の小児、小児の救急処置 虐待の予防と早期発見、虐待を受けた小児と親への援助		講義	
15回	まとめ・試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 1 小児看護学概論・臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院				
備考	シラバスで示されている学習内容についてテキストを熟読したうえで受講すること。				

授業科目	小児看護学演習	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 後期
学習目標	1. 病児の成長・発達に基づいたアセスメントの特徴が理解できる。 2. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる。 3. 病児の発達段階に応じた遊びとプレパレーションについて理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	小児の診療に伴う援助と看護	1) 小児のコミュニケーションの特徴 2) 小児の診療に伴う援助と看護の留意点		講義 (VOD)	
2 回	安全と事故防止対策 身体抑制	1) 抑制の方法と留意点、抑制中の観察点 2) 子どもの入院環境と事故防止対策		講義 (VOD)	
3 回	フィジカルアセスメントと看護	1) 身体計測、バイタル測定 2) 乳幼児の抱き方		講義	
4 回	与薬	1) 乳幼児への経口与薬の援助と留意点 2) 小児への薬液吸入の援助と留意点		講義	
5・6 回	小児への検査・治療・処置と看護	1) 乳幼児の口腔鼻腔内吸引の援助と観察点 2) 乳幼児への採血の援助 3) 点滴を受ける患児の看護、点滴の固定 4) 乳幼児への穿刺時の援助、経管栄養、睡眠を要する検査の援助 5) 隔離を要する小児への援助		講義 (VOD)	
7～9 回	検査や処置・治療を受ける小児への説明の必要性とその技術	1) 病児の発達段階をふまえた遊びの特徴 2) 小児・家族への説明と看護の留意点 3) 検査、処置、治療を受ける小児へのプレパレーションの意義と方法 (インフォームド・コンセント・アセント)		講義	
10 回	小児看護の倫理的課題 在宅療養を行う子どもと家族 災害を受けた子どもと家族	1) 小児看護の臨床場面での倫理的課題 2) 在宅療養を行う子どもと家族の看護についてのアセスメント 3) 災害時の子どもと家族への看護についてのアセスメント 子どもや家族を看護する者への支援		講義 (VOD)	
11 回	技術演習	子どもに対する看護技術 (身体計測、吸入、点滴の援助など)		演習	
12 回	小児への説明と技術 小児の看護過程の特徴と展開	1) 事例の提示、成長・発達段階や病態及び障害に応じたアセスメント 2) 検査・治療・処置プレパレーションの計画立案 3) 目標設定と具体策立案		講義	
13～15 回				演習	
評価方法	レポート				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ 毎回授業時に資料を配布する。				
備考	シラバスで示されている学習内容についてテキストを熟読したうえで受講すること。 演習の際は事前に持ち物や服装について指示する。 身だしなみについて留意すること。				

授業科目	正常な経過をたどる 妊産褥婦の看護	講師名	医師	単位数	1単位
				時間数	16/30
				年次 学期	2年次 前後期
学習目標	1. 妊娠・分娩・産褥期および新生児の正常な経過が理解できる 2. 妊娠・分娩・産褥期および新生児に起こりうる異常が理解できる				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1回	1. 正常な経過の理解	1) 妊娠期の身体的特性		講義	
2回		2) 胎児の発育と健康状態の診断 新生児の生理		講義	
3回		3) 分娩の要素、分娩の経過 4) 産褥期の身体的特性		講義	
4回	2. 起こりうる異常の理解 1) 妊娠期	1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 異所性妊娠		講義	
5回		2) 分娩期	1) 産道、娩出力、胎児及び付属物の異常 2) 分娩時の損傷 3) 分娩第3期及び分娩直後の異常 4) 異常出血 5) 産科処置と産科手術		講義
6回	3) 産褥期		1) 子宮復古不全 2) 発熱 3) 産褥の血栓症 4) 精神障害		講義
7回		4) 新生児	1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症		講義
8回	3. 不妊治療		1) 遺伝相談 2) 不妊治療 (1) 原因 (2) 検査 (3) 治療		講義
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院				

授 業 科 目	正常な経過をたどる妊 産褥婦の看護	講師名	助産師	単位数	1 単位
				時間数	14/30
				年次	2 年次
				学期	前/後期
学 習 目 標	1. 周産期における心身の特徴について理解できる 2. 周産期にある人々の看護を理解できる				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1回 2回	1. 妊婦の看護	妊婦と家族の看護 1) 基礎的情報 2) 妊婦健康診査 3) 身体的健康状態のアセスメント 4) 日常生活のアセスメント 5) 心理・社会面のアセスメント 6) 妊婦の保健相談 7) 親になるための準備教育			講義
3回	3. 産婦の看護	産婦と家族への看護 1) 健康状態のアセスメント 2) 分娩進行に伴うアセスメント 3) 基本的ニーズに伴うアセスメント 4) 産婦と家族の心理社会面のアセスメント 5) 安全・安楽な分娩への看護 6) 基本的ニーズに関する看護 7) 家族への看護 8) 分娩経過に合わせた看護の実際			講義
4回 5回	4. 褥婦の看護①	褥婦と家族の看護 1) 産褥経過の診断 2) 褥婦の健康状態のアセスメント 3) 身体機能回復及び進行性変化への看護 4) 児との関係確立への看護 5) 育児技術にかかわる看護 6) 家族関係再構築への看護 7) 退院後の看護			講義
6回	5. 新生児の看護	1) 新生児の健康状態のアセスメント 2) 新生児の看護			講義
7回	まとめ・試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院				
備考	シラバスで示されている学習内容についてテキストを熟読したうえで受講すること。 4回目は実習室での講義となる。各自、プラスチックエプロン、手袋を持参すること。				

授 業 科 目	異常な経過をたどる妊産褥婦の看護	講師名	助産師	単位数	1 単位
				時間数	15 時間
				年次 学期	2 年次 後期
学 習 目 標	1. 妊娠、分娩、産褥期に起こり得る異常への看護について理解する。 2. 新生児に起こり得る異常への看護について理解する。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1～2回	1. 正常から逸脱した妊婦の看護を理解する	1)ハイリスク妊婦の看護 妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群 切迫流産・早産 多胎妊娠 胎盤の異常 羊水の異常 子宮外妊娠 2)妊娠合併症妊婦の看護 貧血 感染症 心疾患 糖尿病 自己免疫疾患			講義
3回	2. 正常から逸脱した産婦の看護を理解する	3)異常分娩の産婦の看護 産道・娩出力・胎児と付属物の異常 分娩時の異常 異常出血 急速遂娩 胎児機能不全			講義
4～5回	3. ハイリスク新生児の観察とアセスメントができる	4)胎外生活不応状態への看護 呼吸障害 体温異常 血糖の異常 発疹 哺乳障害 嘔吐 腹部膨満 新生児の病的黄疸 5)ハイリスク新生児への看護 低出生体重児 過期産児 TTTS 新生児仮死 多胎 染色体異常 奇形児 感染症 妊娠性高血圧症候群で出生した児 妊娠性糖尿病で出生した児 羊水過多・過少 6)新生児疾患の看護 新生児メレナ 胎便吸引症候群 新生児一過性多呼吸 呼吸窮迫症候群			講義
6～7回	4. 正常から逸脱した褥婦の看護を理解する	7)産褥異常の看護 産褥熱 子宮復古不全 尿路感染 感染症 乳房・乳頭のトラブル マタニティブルー 母子分離 新生児死亡 8)児を亡くした家族への援助			講義
8回	試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院				
備考	シラバスで示されている学習内容についてテキストを熟読したうえで受講すること。				

授業科目	母性看護学演習	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	16/30 時間
				年次	2 年次
				学期	後期
学習目標	1. 母性の対象となる人々の健康に関する必要な看護技術及び支援について理解できる。 2. 正常に経過する褥婦と新生児および家族に必要な看護の実際を理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	1. 母性看護に必要な看護技術	母性看護の対象者への教育の必要性 1)母性看護学に活用できる理論 2)ウェルネス診断についての理解		講義	
2 回	2. 褥婦に必要な看護 1	3)事例紹介 4)情報の整理・分析		講義 (VOD)	
3 回	3. 褥婦に必要な看護 2	情報の整理・分析 1) 関連図の作成 2) 看護計画の立案		講義 (VOD)	
4 回	4. 褥婦に必要な看護 3	子宮復古・母乳栄養・感染予防・新しい家族形成への援助 1) 関連図の作成 2) 看護計画の立案		講義 (VOD)	
5 回		3) 事例に合わせた子宮底の観察 4) 事例に合わせた乳房の観察		演習	
6 回	5. 新生児に必要な看護	正常に経過する新生児に必要な看護 1) 胎外生活への適応 2) 成長・発育の促進		講義 (VOD)	
7 回	6. 女性生殖器疾患をもつ患者の看護	1) 乳がん 2) 子宮筋腫		講義 (VOD)	
8 回	まとめ・試験	試験			
評価方法	レポート				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				
備考					

授 業 科 目	母性看護学演習	講師名	助産師	単位数	1 単位
				時間数	14/30 時間
				年次	2 年次
				学期	後期
学 習 目 標	1. 母性の対象となる人々の健康に関する必要な看護技術及び支援について理解できる。 2. 正常に経過する褥婦と新生児および家族に必要な看護の実際を理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1 回	妊婦に必要な看護技術	<妊娠期> 妊婦の楽な姿勢・良い姿勢・妊婦体操 レホ°ルト°触診・胎児心音聴取 演習項目：安楽な姿勢、良い姿勢・骨盤ケア			演習
2 回	産婦に必要な看護技術	<妊娠期>マタニティヨガ (呼吸法・マッサージ法・圧迫法) 演習項目：産痛緩和、レホ°ルト°触診・マタニティヨガ			演習
3 回 4 回	褥婦に必要な看護技術	<分娩期>入院から退院までの流れ 産痛緩和法 <産褥期>産褥体操・骨盤底筋群の引き締め運動 子宮底の観察・乳房自己管理（妊娠中の 乳房ケア含む）・授乳技術 演習項目：乳房自己管理、授乳技術、身体計測、 バタメイン測定			演習
5 回 6 回	新生児に必要な看護技術	<新生児期> 1) 身体計測・バタメイン測定・全身の観察 2) 沐浴デモンストレーション 3) 沐浴の実施 演習項目：全身の観察・沐浴			演習
7 回	沐浴の技術確認	安全な沐浴の実施			演習
評価方法	筆記試験				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				
備考	白衣での出席とする。				

授業科目	精神看護援助技法	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	15 時間
				年次	2 年次
				学期	前期
学習目標	精神看護の基本的技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1 回	1. 精神疾患を持つ患者への接近方法	1. 精神障害の理解と看護の基本 (1) 精神障害者の理解と考え方 ①精神障害をもつ対象の把握の仕方 (2) 接近・接触の技法 ①人としての尊厳を尊重する ②互いの境界を守る ③現実検討をする ④応答性を保つ <演習> 視線・立ち方・座る位置・声のトーンと速度・時間 質問の仕方・話をする		講義 (VOD)	
2～4 回	2. 患者－看護師関係の成立と発展	(3) 援助関係の構築 ①信頼関係の基礎づくり ②患者－看護師関係の発展と終結 (事例を用いる) ③プロセスレコードの概要 グループ討議		2、3 回目：講義 (VOD) 4 回目：講義、演習	
5～6 回	3. 精神疾患を持つ患者への環境調整	2) 精神障害をもつ対象のアセスメント (1) 情報収集の視点 (2) 観察 全身状態の観察、対人関係の観察 (3) 環境調整 ①治療と環境 (4) 入院生活上の問題とそのケアの視点 ①環境調整の実際 ②社会生活技能訓練 (SST)		講義 (VOD)	
7 回	4. 家族の置かれている状況と援助	2. 患者家族の理解とその援助 1) 患者家族の心理 2) 家族の負担 3) 家族が危機を乗り越えるための援助		講義 (VOD)	
8 回	筆記試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト参考書等	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院				
備考					

授業科目	精神障害のある 対象の看護	講師名	看護師	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次 学期	2 年次 前期
学習目標	1. 診察・検査・治療法を受ける対象に必要な看護が理解できる。 2. 精神障害者の症状と問題の特徴を理解し、家族を含めた看護援助の方法が理解できる。				
回数	主題	学習内容および方法			授業形態
1～2 回	1. 精神に障害を持つ人の看護の基本	1. 精神に障害を持つ人の看護の基本 1) 目標・役割 2) 観察の視点と記録、アセスメント ・精神症状・身体症状・身体合併症・薬物副作用 ・隔離、身体拘束における観察と記録 3) 権利擁護（アドボカシー） ・病棟環境の整備と行動制限 ・インフォームド・コンセント・入院患者の基本的処遇 ・精神医療審査会・隔離、身体拘束 4) リスクマネジメント ・自殺、自殺企図、自傷行為・攻撃的行動、暴力 ・無断離院・災害時地域精神保健医療活動			講義 演習
3～4 回	2. 精神科看護の場とそれぞれの看護	2. 精神科看護の場と看護 1) 外来での看護 2) 病棟での看護（急性期・慢性期の看護） 3) リハビリテーション 4) 地域での看護（社会復帰期） ・精神科デイケア・訪問看護・包括的地域支援プログラム・生活支援（グループホームなど）・交流・労働・リエゾン精神看護・社会資源の活用など			講義
5～6 回	3. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護	3. 診察・検査および治療に伴う看護 1) 診察に伴う看護 2) 検査に伴う看護 3) 身体療法（薬物療法・電気痙攣療法）を受ける患者の看護 4) 精神療法を受ける患者の看護（行動療法・認知行動療法・森田療法・回想法・作業療法・芸術療法・精神分析・心理教育・SST など） 5) 隔離・拘束時の看護			講義
7 回	4. 医療観察法による指定入院機関における看護の特徴	4. 医療観察法と看護管理 1) 医療観察法 2) 医療観察法病棟での看護管理の実際 3) 医療観察病棟における看護と看護師の役割			講義
8 回	1) 統合失調症をもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護	1. 統合失調症をもつ人の生活と看護 1) 精神症状・身体症状・セルフケアのアセスメント 2) 経過に応じたかかわり 3) 主な精神症状と看護 4) 主な治療と看護 5) 家族への援助			講義
9 回	2) 気分障害をもつ人の生活の特徴と家族を含めた看護	2. 気分障害をもつ人の生活と看護 1) 精神症状・身体症状・セルフケアのアセスメント 2) うつ状態にある人の生活と看護 3) 躁状態にある人の生活と看護 4) 薬物療法・電気けいれん療法と看護 5) 家族への援助			講義

10回	3) 神経症性障害、ストレス関連性障害をもつ人看護	3. 不安障害・強迫障害・適応障害・解離性障害・身体表現性障害をもつ人の生活と看護 1) 不安と防御機制 2) 症状と看護 3) 家族への援助	講義
11回	4) 生理的障害および身体的要因に関連した行動をもつ人の看護	4. 摂食障害・睡眠障害・性機能不全・性同一性障害などをもつ人の生活と看護 1) 成長発達の特徴 2) 症状と看護 3) 家族への援助	講義
12回	6) 器質性精神障害をもつ人看護	6. 認知症・症状精神病・精神作用物質使用による精神および行動の障害を持つ人の生活と看護 1) 離脱症状と看護 2) リハビリテーションと看護 3) 家族への援助 4) バリテーションとは	講義
13回	7) てんかんをもつ人の生活の特徴と看護	7. てんかんを持つ人の生活と看護 1) てんかん発作と看護 2) 家族への援助	講義
14回	8) 知的障害・精神遅滞・心理的発達の障害をもつ人の看護	8. 知的障害・精神遅滞・特異的発達障害・広汎性発達障害の人の生活と看護 1) 成長発達の特徴 2) 症状と看護 3) 家族への援助	講義
15回	試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 国民衛生の動向 2020/2021 厚生労働統計協会		
備考			

授業科目	精神看護学演習	講師名	専任教員	単位数	1 単位
				時間数	30 時間
				年次	2 年次
				学期	後期
学習目標	1. 精神に障害をもつ患者の特徴を理解し、援助計画が立案できる。 2. プロセスレコードによって自己のコミュニケーションの傾向がわかる。				
回数	主題	学習内容および方法		授業形態	
1～12 回	1. 精神疾患を持つ対象のアセスメント	1. 精神疾患を持つ対象の看護の理解 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論 ゴードンの「11 の健康機能パターン」を用いた情報の整理とアセスメント、看護上必要なことの抽出		講義 / 演習 1、3、5、7 9、11 回目 講義(VOD) 2、4、6、 8、10、12 回目	
	2. 精神疾患を持つ対象の看護	2) 紙上事例による看護過程 ①統合失調症 看護問題に対する患者の目標 目標達成に向けた援助計画の立案 アセスメントを含めた観察の視点 精神障害をもつ対象との接近・接触の実際			
	3. 精神疾患を持つ対象の状態にあわせた看護計画の立案	②うつ病 看護問題に対する患者の目標 目標達成に向けた援助計画の立案 アセスメントを含めた観察の視点 精神障害をもつ対象との接近・接触の実際			
13～14 回	4. 看護計画に基づいた援助およびその評価				
	5. プロセスレコードによって自己のコミュニケーションの特徴の理解	<演習> 3) プロセスレコードの活用 実際に記入し、グループ討議を行い、自己のコミュニケーションの傾向をつかむ		講義 / 演習 13 回目 講義(VOD) 14 回目	
15 回	6. 人々の回復を支えるさまざまな治療的アプローチ	<演習> 4) 社会生活技能訓練 (SST) の実際		講義 / 演習 15 回目	
評価方法	出席状況、課題レポート提出状況、内容、グループワーク参加状況、グループワーク発表状況を総合し評価する。				
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院 適時授業内で参考資料や参考文献を示す。				
備考					